

## O11-4

## 下肢装具②

## 関節リウマチを合併した脳血管障害患者に対する膝装具製作の一症例

○高澤 恭介(PO)、谷川 大輔(PO)

株式会社田村義肢製作所

キーワード: 関節リウマチ / 脳血管障害 / 膝装具

【背景】脳血管障害(以下 CVD)による片麻痺患者では歩行障害を呈することが多く、歩行の安定性の向上を目的として短下肢装具が広く用いられる。一方、関節リウマチ(以下 RA)患者では関節変形や機能障害により装具の着脱が困難となる場合もある。今回、RA の既往がある中で脳血管障害を発症した患者に対し、膝装具製作と靴の加工を行うことで歩行の改善を認めた症例を経験したため報告する。

【症例】症例は 60 代女性。RA の既往がある右片麻痺患者で両手指変形と右膝関節の伸展制限、右膝関節以下の外旋変形がみられ、右足関節底背屈の ROM はそれぞれ 0° だった。加えて右股関節の臼蓋不全も認められた。これらの症状により足元まで手が届かないため、短下肢装具や長下肢装具の装着が困難であった。また、患者は独居であり装具の使用は自立する必要があった。

【装具内容】長・短下肢装具の装着が困難なこと、歩行時の膝関節安定性を向上させる目的で軟性両側支柱付膝装具を選択した。膝関節に伸展制限を認めたため軽度屈曲位固定とし、両側の支柱を巻き付けるような設計にした。また、下腿が外旋し足部が進行方向に対しほぼ直角になっているため、立脚期での膝屈曲を増長していた。そのため、靴に内側ウェッジをつけることで立脚期の制御を行った。

【適合時評価】装具装着下にて歩行器歩行を実施した結果、歩行時の膝関節の安定性と歩行速度の上昇を認め、歩行の安全性が改善した。

【まとめ】本症例のような RA と CVD を併発した患者は関節変形や拘縮が多くあり、装具の着脱能力を考慮した装具選択も重要になる。軽度屈曲位固定膝装具と内側ウェッジ靴による膝関節の制御は、歩行補助の一手段となる可能性が示唆された。